

消防広第 81 号
平成28年3月31日

各都道府県防災主管部長

殿

東京消防庁・政令市消防長

消防庁広域応援室長

自衛隊航空機等による消防車両の輸送時における留意事項について

今般、これまで緊急消防援助隊が出動した災害や平成27年度に実施した緊急消防援助隊全国合同訓練等における教訓を踏まえ、自衛隊が保有する航空機（C-130等）及び艦艇（輸送艦等）により消防車両を輸送する際の留意事項を下記のとおりとりまとめました。

貴職におかれましては、これらの内容を御理解の上、その運用に十分配慮されるとともに、都道府県におかれましては、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対しても、この旨周知されるようお願いいたします。

なお、本通知は、その内容を防衛省と調整済みであること及び消防組織法（昭和22年法律第226号）第37条の規定に基づく助言として発出するものであることを申し添えます。

記

1 自衛隊輸送機（C-130等）による消防車両輸送時の留意事項

（1）輸送調整に係る対応

消防庁が緊急消防援助隊の輸送調整を行う場合、都道府県及び消防本部は、次に掲げる事項に十分に留意し、消防庁と緊密に連携し対応すること。

- ① 緊急災害対策本部又は非常災害対策本部における調整のほか、大規模災害に際しての消防及び自衛隊の相互協力に関する協定の実施に係る留意事項」(平成8年1月17日消防救第12号、防運第154号。以下「留意事項通知」という。)第5条に定める実施要領に基づき、消防庁と防衛省の間で調整が行われること。
- ② 上記①の調整の結果、消防車両を輸送することが決定した場合は、消防庁から輸送対象の消防本部及び当該消防本部が属する都道府県に対し、輸送する車両、輸送手段・経路、輸送のための集合場所・時間等の情報を連絡すること。

(2) 輸送に係る必要書類

- ① 輸送調整を行う消防本部は、消防庁からの求めに応じ、速やかに別添1に必要事項を記入し、消防庁に送付すること。
- ② 輸送調整の結果、輸送機により空輸することとなった消防本部は、別添2に航空機に搭乗する人員に関する必要事項を記入し、搭乗する輸送機を運用する自衛隊に提出すること。

(3) 車両に積載されている燃料、資機材等への対応

- ① 車両走行用の燃料は、災害時などの緊急時は3/4以下(訓練時などの通常時は1/2以下)でなければ空輸できないため、離陸場所までに調整するなどの対応をすること。
- ② 車両積載の資機材(発電機、エンジンカッター等)の燃料については、ガソリンの場合は全て抜き取り、軽油(ディーゼル)の場合は、すべて抜き取り掃気(乾燥)させること。また、燃料は空輸に適合した携行缶(国連規格容器(UNマークの付されたもの))に補給し積載すること。
- ③ 車両座席部や両サイド等のシャッター内などに積載している資機材は、離着陸時や輸送時に移動しないように、強固に固縛すること。
- ④ タイヤ空気圧は、0.7Mpa(約7kgf/cm²)以下であること。
- ⑤ 空気ボンベは、15.0Mpa(約150kgf/cm²)以下の圧力であれば積載可能であるが、積載に当たっての細部については、自衛隊と調整する必要があること。
- ⑥ アセチレンガスや酸素等の高圧ガス容器は、製品安全データシート(MSDS)を自衛隊に提出し、積載の可否を調整する必要があること。

2 自衛隊艦艇(輸送艦)における消防車両輸送時の留意事項

(1) 輸送調整に係る対応

- ① 都道府県及び消防本部は、上記1(1)①及び②に十分に留意し、消防庁と緊密に連携し対応すること。

- ② 艦艇への乗船時間は、潮汐により艦艇のサイドランプ（輸送艦乗船時の入口）の角度が変化することにより、搭載可能・不可能な時間帯を有することから、集合時間は特に厳守すること。

(2) 輸送に係る必要書類

- ① 輸送対象の消防本部は、消防庁からの求めに応じ、速やかに別添3に必要事項を記入のうえ、その他必要なデータを添付し、また、チェーンによる車両固定の可否確認等のため、別添4の例に従い、車両の写真を消防庁に送付すること。
- ② 輸送調整の結果、車両を輸送するとの連絡を受けた消防本部は、別添5に艦艇に乗船する人員に関する必要事項を記入し、集合場所となる自衛隊基地等において艦艇を運用する自衛隊に提出すること。

(担当) 消防庁広域応援室

塩谷・根本・菅原

TEL: 03-5253-7527

アドレス: a2.sugawara@soumu.go.jp

車両搭載 諸元記入表(輸送機)

別添1
(その1)

*.....点線を実線にして車両の形状を記入して下さい

前方 ←

前方オーバーハング間最大地上高【 cm 】
及び、最前端部からの距離【 cm 】

後方オーバーハング間最大地上高【 cm 】
及び、最後端部からの距離【 cm 】

前方最大高オーバーハング【 cm 】

全長【 cm 】
全幅【 cm 】
全高【 cm 】
自動車登録番号又は車両番号【 】
会社名、車名【 】
車台番号【 】

後方最大高オーバーハング【 cm 】

前方最大長オーバーハング【 cm 】

ホイールベース【 cm 】

後方最大長オーバーハング【 cm 】

前方最低高オーバーハング【 cm 】

後方最低高オーバーハング【 cm 】

最前方最低地上高【 cm 】

最後方最低地上高【 cm 】

前方オーバーハング間最低地上高【 cm 】

ホイールベース中心線最低地上高【 cm 】

後方オーバーハング間最低地上高【 cm 】

【前軸重量 kg】

【後軸重量 kg】

【総重量 kg】

記入年月日 _____

記入者: 所属、氏名、TEL _____

過去の輸送実績 (有りの場合は年月日・離着場所を記載)

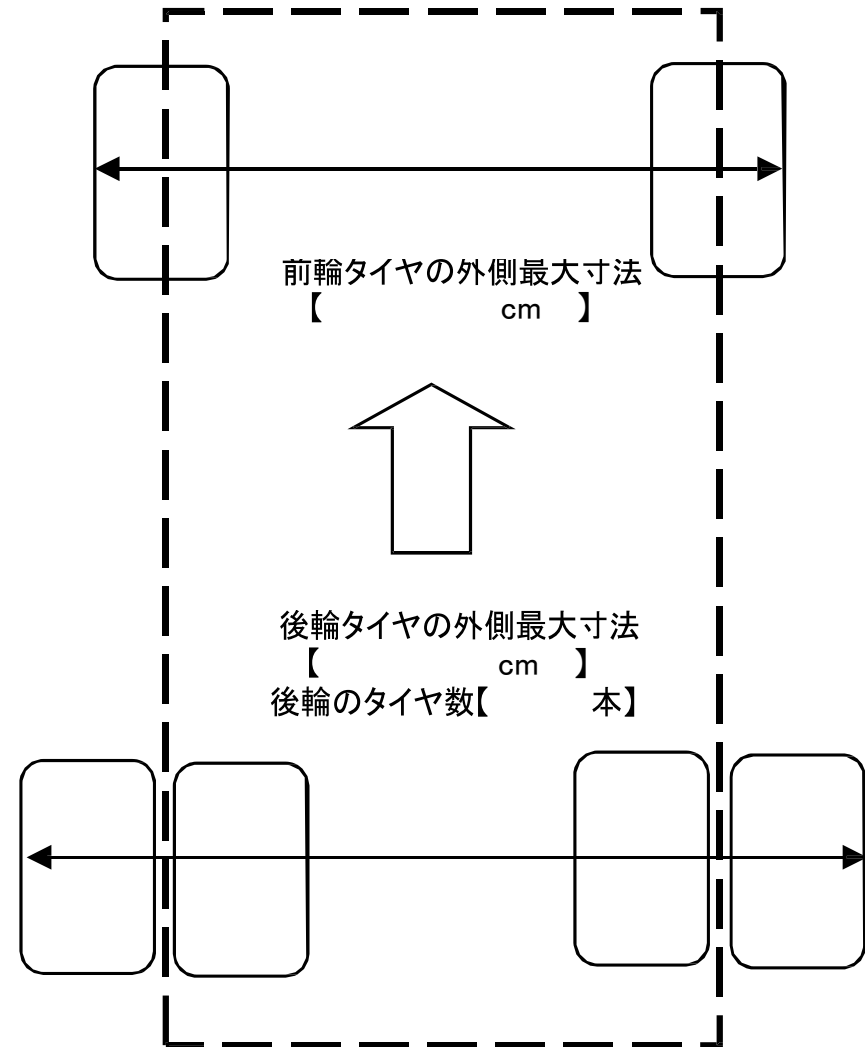
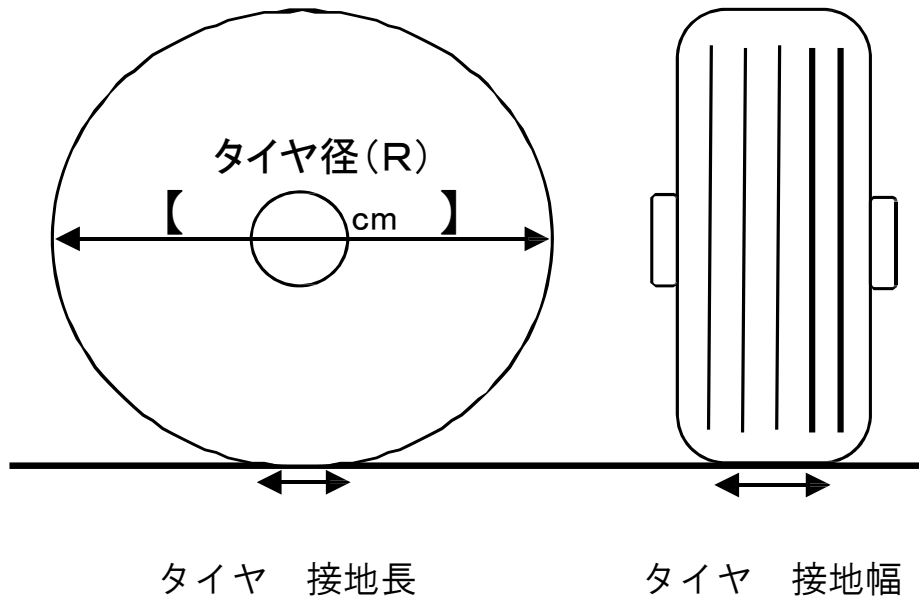
輸送の可否

車両搭載 諸元記入表(輸送機)

別添1
(その2)

タイヤの種類

空気タイヤ	
空気のないゴムタイヤ	
スティール性のタイヤ	



航空機搭乗承認申請書

年 月 日

殿

申請者 職名
氏名

印

航空機の搭乗について、下記により承認されたく申請します。

記

- 1 搭乗者の職名、氏名及び年齢
- 2 搭乗理由
- 3 搭乗予定日及び搭乗区間
- 4 搭乗航空機の型式
- 5 その他必要な事項
- 6 事故があった場合の通知先

この搭乗に当たっては、機長及び関係担当官の指示に従って行動します。

搭乗者 住所
氏名

印

この搭乗に同意します。

親権者 住所
氏名

印

(注意)

- 1 申請者は、搭乗者の旅行命令権者とする。
- 2 搭乗者全員の住所・氏名を記入し押印すること。
- 3 未成年の搭乗者については、親権者の同意を得ること。

乗艦依頼車両 諸元一覧表

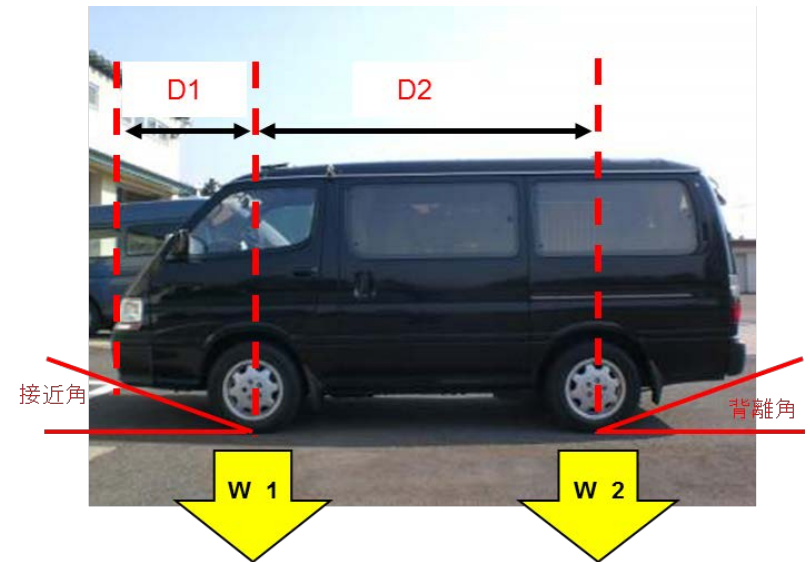
名称 (型式)	全長 (mm)	全幅 (mm)	全高 (mm)	接近角 (度)	背離角 (度)	設置圧 (kg/cm ²)	D1 (mm)	D2 (mm)	W1 (kg)	W2 (kg)	重量 (kg)	総W1 (kg)	総W2 (kg)	総重量 (kg)	積荷重 量(kg)	配備消 防本部	車両 ナンバー	輸送の 可否※

※接近角、背離角、D1、D2、総重量、積荷重量は必ず入力する。

※自衛隊が
入力

※その他必要なデータ(車検証のコピー、搭載物の内訳(危険物確認のため)、車両の重心位置(キャタピラ車の場合) 等)を添付

- ・名称：各車両の正式名称及び型式
- ・接近角：アプローチアングル
- ・背離角：デパーチャーアングル
- ・接地圧：各車両の接地圧力（満載時での数値）。
- ・D1：車両前端～前輪軸までの距離（オーバーハング）
- ・D2：車両前輪軸～後輪軸までの距離（ホイールベース）
6輪車は前輪軸～後部の前輪軸と後輪軸間の中心点までの距離
- ・W1：空荷時の車両前輪軸にかかる重量
- ・W2：空荷時に車両後輪軸にかかる重量
- ・重量：空荷時の車両重量（W1+W2）
- ・総W1：満載時の車両前輪軸にかかる重量
- ・総W2：満載時の車両後輪軸にかかる重量
- ・総重量：満載時の車両重量（総W1+総W2）



車両の写真(例)

別添 4
(その1)



正面



左側面



右側面



背面



前下面



後下面

タイダウンポイント(チェーンによる係止箇所)の写真(例)

別添 4
(その2)



右前部



右後部



左前部



左後部

※タイダウンポイントがある場合に添付する。

※タイダウンポイントの耐荷重を記載する。(総重量に応じた十分な耐荷重が必要)

乗船者 兼 入構者名簿

所属	職名	氏名	住所(自宅)	生年月日	年齢

※住所については、個人情報につき、取り扱いに注意すること。

※基地に入構する職員全員について記載をすること。

自衛隊輸送機による輸送実績車両 諸元一覧

訓練・災害名	消防本部名	車両名等	車両諸元								備考
			長さ (cm)	高さ (cm)	幅 (cm)	重量 (kg)	ホイールベース (cm)	最低地上高 (cm)	背離角 (度)	接近角 (度)	
平成25年台風第26号による伊豆大島土砂災害	東京消防庁	トヨタ・ハイエース	505	241	188	2820	250	17	15	16	C-130H搭載
		日産・キャラバン	485	226	169	1860	241	13	15	13	C-130H搭載
		日産・キャラバン	490	218	169	1840	242	17	—	—	C-1搭載
		日産・エクストレイル	466	188	176	1470	263	20	—	—	C-1搭載
	横浜市消防局	日産・キャラバン	513	240	169	2410	295	22	20	30	C-1搭載
		日産・キャラバン	469	199	169	1860	255	17	9	8	C-1搭載
		日産・セレナ	468	204	169	1730	286	15	10	10	C-1搭載
	川崎市消防局	トヨタ・サーフ	482	197	191	2175	279	30	24	19	C-130H搭載
		日産・バネット	441	205	169	1815	273	20	22	15	C-130H搭載
	静岡市消防局	日産・エクストレイル	459	184	178	1785	263	20	24	27	C-1搭載
	浜松市消防局	日産・バネット	428	222	163	2285	222	30	34	31	C-1搭載
	富士市消防本部	トヨタ・ハイエース	469	213	169	3115	260	20	30	35	C-1搭載
	さいたま市消防局	トヨタ・ハイエース	541	242	189	2835	311	19	20	20	C-1搭載
	平成24年輸送機積載検証	名古屋市消防局	救助工作車Ⅳ型	615	270	220	5710	341	26	18	18
平成27年第5回緊急消防援助隊全国合同訓練	京都市消防局	大規模震災用高度救助車(AR)	594	288	215	6085	283	15	15	15	H24年度配備無償使用車両 C-130H搭載
		大規模震災用高度救助車(ER)	598	288	215	6095	283	15	15	13	H24年度配備無償使用車両 C-130H搭載

※C-130H型輸送機：機内積載可能重量約20 t（飛行経路及び気象条件により減となる）。本航空機のカーゴスペースは、長さ約12.5m×幅約3m×高さ約2.7mが限界である。

C-1型輸送機：機内積載可能重量約5.7 t（飛行経路及び気象条件により増減する）。本航空機のカーゴスペースは、長さ約10.5m×幅約2.7m×高さ約2.3mが限界である。

自衛隊輸送艦による輸送実績車両 諸元一覧

訓練名	消防本部名	車両名等	車両諸元								備考
			長さ (c m)	高さ (c m)	幅 (c m)	重量 (k g)	ホイールベース (c m)	最低地上高 (c m)	背離角 (度)	接近角 (度)	
平成27年第5回緊急消防援助隊全国合同訓練	広島市消防局	支援車Ⅰ型	1096	230	249	1384	590	28	12	12	H24年度配備 無償使用車両
	松山市消防局	拠点機能形成車	1197	125	250	1445	711	30	10	14	H25年度配備 無償使用車両
	福山地区消防組合消防局	無線中継車	496	300	188	293	257	20	21	24	H23年度配備 無償使用車両
	岡山市消防局	重機及び重機搬送車 (5 t)	1154	318	249	1128	545	26	10	18	H24年度配備 無償使用車両
	呉市消防局	救助工作車Ⅲ型	778	270	230	1142	375	37	12	19	(ベース：日野)